



安心 自信 自由



障害者の権利をまもる為に
私たちができること

性暴力の被害者にも加害者にもしないため
に何ができるか一緒に考えていきましょう

認定NPO法人
CAPセンター・JAPAN



(1) はじめに

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

2

認定NPO法人CAPセンター・JAPAN
子どもが自分を大切な存在だと実感できる社会を実現する



所在地：
大阪府大阪市阿倍野区

民間のNPOとして
市民と共に社会課題「子どもへの暴力防止」に取り組んで26年
2023年7月 認定NPO法人に認定

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

3



C Child

A Assault

P Prevention

子どもへの暴力防止



子どもの権利をベースにした
予防教育プログラムを
おとなと子どもの両方に提供しています

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

4

CAPセンター
認定NPO法人

グラドルール

参
尊
守
時

加
重
秘
間

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

CAPセンター
認定NPO法人

確認しておきましょう
…そうだったんだあ

「しょうがいしゃ」言葉の表記

- ・障害者 … 常用漢字として登録。
便宜的に広く使用されている漢字。
- ・障害者 … 「害」という字が「害悪」「害虫」「公害」などをイメージさせるため、「妨げ」という意味で「碍」を使用。
社会的生活の妨げとなるハンデを持つ人という意味を持たせるために使用される。
- ・障がい者 … 上記2つの定義や意味、意見に左右されない表記として使用される。
- ・障がいのある人…障がい者と同じ意味。使用する側が、使い分けて説明する必要があると思ったときに、使用される。

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

CAPセンター
認定NPO法人

(2) 権利とは

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

CAPセンター
認定NPO法人

Nothing about us, without us!

我々抜きに決めたことは無効だ!

子どもの権利条約	障害者権利条約 <small>(障害者の権利に関する条約)</small>	女性差撤廃条約
1994年 批准 158番目	2014年 批准 140番目	1985年 批准 121番目
こども基本法	障害者基本法	男女共同参画社会基本法

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

権利 (right)

■ **人権** = 人が人として生きていくのにないと困るもののこと (human rights) ※ **義務や責任は不要**

★障害者権利条約の「権利」は人権を意味します。

■ **市民権** = より豊かに暮らすためにある一定の対価 (義務・責任・資格も含む) をもって得る権利

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 9

けんり

生きていくのにないと困るもの (基本的人権)

あなたが生まれたときから持っている、
生きていくためにないと困るもの—権利にはどんなものがある?
(30秒でとにかくたくさん書き出してください)

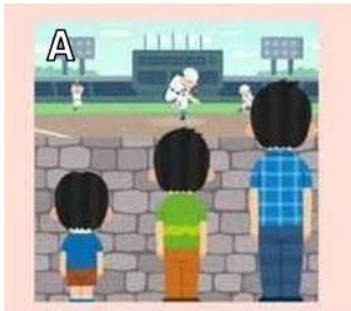
©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 10

こんな場面に出会ったら
あなたはどうする?

この絵を見て何を感じる?

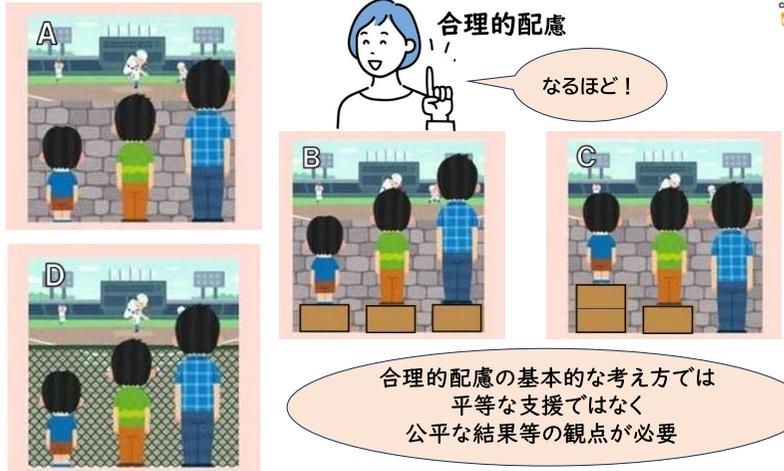
あなたなら、どうする?
30秒考えてみましょう。

「私はこうする。」
どなたか
発言してください。



©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 11

合理的配慮
なるほど!



合理的配慮の基本的な考え方では
平等な支援ではなく
公平な結果等の観点が必要

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 12

障がいとは・・・ 難しく考えないでね!

Disability is Natural
『障がいのあることは自然なことである』



障がいは自然なことと理解すると、障がいとはただ身体の一部が私たちと違った動きをするだけだとわかる。そして障がいのある人たちはあるがままで在って良いということがわかる。だからもう彼らを変えようとせず、障がいというものをどう捉えるか、私たち自身を変えれば良いことがわかる。

人権という視点で考えると、個人の問題ではなく、社会の中で自由に生きる条件が整っていない社会に問題があるということ。

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 13

(3) 性暴力とは

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 14

性

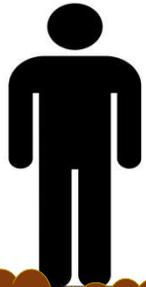
暴力

- ・ 性暴力は「性」を手段とした「暴力」
- ・ 支配の問題であり、人権侵害である

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 15

関係性に目をむける

力を濫用する



圧倒的な力の不均衡

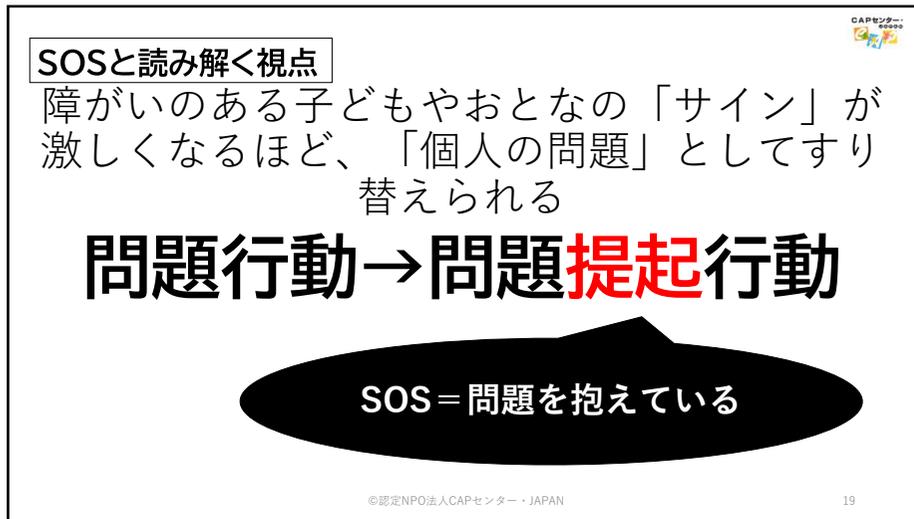
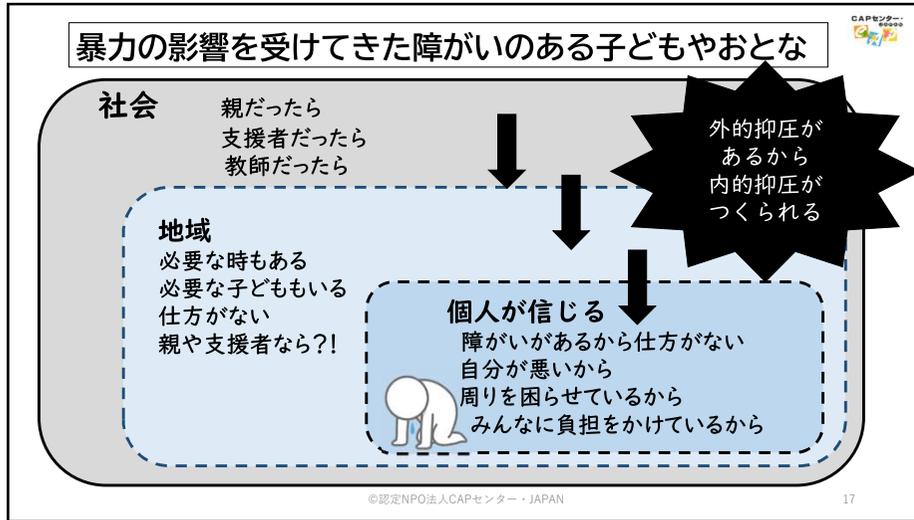
障がいのある人



心とからだを支配される

差別
偏見
誤解
無理解
神話
無関心
思い込み

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 16



(4) 性暴力の神話を考える

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 20

性暴力って…夜道で襲われたり、一部の人にしか関係ないんじゃない？

性暴力って…不審者に気をつけておこなさなきゃね！

性暴力って…小さな子どもには関係ないわ…

性暴力って…ニュースで見る事件とか？！

子どもや障がいのある人への性暴力はめったに起こっていない？！

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 21

社会学でいう神話

- あたかも事実かのように信じられていること
- 根拠がないのに信じられていること
- 神話は不安を煽り、安定した思考を妨げる

・ 障がいのある子どもやおとなへの暴力は誰の視点で見えるのか
⇒ 障がいのある子どもやおとなの視点で見る

・ 障がいのある子どもやおとなへの暴力の事実から何を読み解くか
⇒ 社会のなかで、障がいのある子どもやおとなはどのように扱われているのか

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 22

神話を考える

神話1: 障がいのある人は、感受性にも障がいがあるため、何をされてもよく分からない。暴力によって精神的なダメージを受けないし、自分に何が起きているかがおそらく分からない。

神話2: 障がいのある人は性的に魅力がないため、レイプなどの性暴力の対象にならない。

神話3: レイプ犯や暴行犯のほとんどは、知的障がい、精神障がいのどちらか、もしくは両方のある男性である。

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 23

(5) CAPの予防のアプローチ

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 24

子どもはなぜ暴力にあいやすいのか

CAPセンター

3つの要因 **CAPプログラム**

⇒効果的な対応策(子どもが暴力にあいやすい状態・環境を変える)

1. 知識・情報・スキルの不足
 - ⇒おとなが正しい知識・情報・スキルを持つ
 - ⇒子どもが正しい知識・情報・スキルを持つ
2. 力を持たされていない(無力感を抱いている→無力化)
 - ⇒おとなが子どもの人権意識を育む働きかけを行なう
 - ⇒子どもの無力感・依存心を減らす
3. 孤立
 - ⇒おとなが子どもを支援・援助する場を増やす・おとな同士がつながる
 - ⇒子ども同士の助け合いを勧める



©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 25

子どもが生涯にわたって安心・安全に暮らすため

CAPセンター

予防

- ①未然防止・・・できる限り安心・安全な環境を整える
- ②発生防止・・・起こりそうになったときにストップする
- ③悪化防止・・・すでに起きていることが悪化するのを防ぐ
- ④再発防止・・・再び起こらないようにする

子どもの力を信じる
当事者である子どもの視点からとらえる

子どもの権利(基本的人権)をベースにした包括的な予防教育

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 26

障がいのある子どもと暴力

CAPセンター

暴力の定義

CAPプログラムにおける定義

暴力とは・・・人の心とからだを傷つけることすべて

障がいのある子どもへの暴力とは・・・

誰からであっても障がいのある子どもの心とからだを傷つけることすべて

- ・CAPの「A」:Assault アサルト あらゆる形態の暴力
- ・小さな芽—このまま放置しておくで深刻な事態になる可能性
- ・まだ名前のついていないもの

予防=広義に捉え、共通認識を持つ

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 27

子どもに特別に大切な3つの権利

CAPセンター



「あんしん」 「じしん」 「じゅう」

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 28

心のレベルの基本的な権利 ～CAPプログラム～

子どもにとって特別に大切な3つの権利

安 心

自 信

自 由

不安

無力感

絶望感
(選択肢はない)

安心・自信・自由がなくなったときの心理状態

“自分を大切な存在と思う感覚”と“自分の危機を察知する感覚”を育む

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 29

CAPプログラム

どんな気持ちもOK!
一人で頑張らなくていい!
自分の感覚・気持ちを大事にしてい
自分の感覚・気持ちを信じていい

子どものピンチ(安心・自信・自由がなくなりそうだ!)を教えてくれるサイン

嫌な気持ち、怖い気持ち、悲しい気持ち、もやもやなど

こんなめにあっていいはずない!
と思うからこそ、感じる

NO!

いやだ

「いやだ」と言ってい

逃げる

逃げていい
(その場から離れる)

相談する

相談しよう

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 30

CAPは“3方向のアプローチ”

幼稚園・保育所

放課後等ディサービスや
障がいのある子どもの入所施設など

小・中・支援学校

子ども

教職員・職員

3～18歳までの子どもにプログラムを提供

家庭

地域

保護者

地域のおとな

教職員ワークショップ

子どもワークショップ

おとなワークショップ

まち全体に働きかけて、
子どもとおとなと一緒に子どもの安心・安全を守るしくみをつくる

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 31

障がいのある子どもが安心・自信・自由であるための
援助者のアプローチ

—4つのC—

(1) **C**oncrete 「できるだけ具体的に」

(2) **C**onsistency 「一貫性」

(3) **C**onstance 「継続性」

(4) **C**ompassion 「共感と思いやり」

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 32

性暴力被害を受けた子どもの周囲(身近な人)の反応

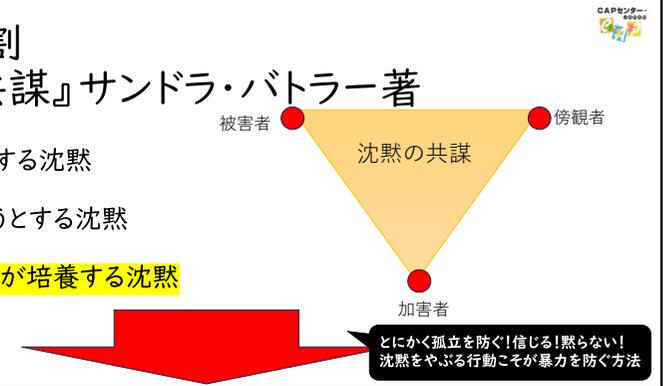
- 否認:被害が起きた事実を認めたくない、信じられない
- 自責感:後悔の念(「自分をもっと注意していれば」)
- 責任感:自分が何とか回復させなければならない
- 怒り:激しい怒りや無念、加害者・社会・被害者への怒り
- 感情麻痺:つらさや怒りが感じられない、共感できない
- 恥意識:社会的偏見への恐れ(「世間に知られたくない」)
- 身体症状:不眠・食欲低下・疲れやすさ・苛ましさ
- 行動:被害のことばかり考えてしまう、外出や行動を制限する、関わることを避ける



33

沈黙の役割 『沈黙の共謀』サンドラ・バトラー著

- 加害者が強要する沈黙
- 被害者が守ろうとする沈黙
- **社会(傍観者)が培養する沈黙**



神話がまかり通っている社会

周囲が傍観者であることにより誰からも守られることなく被害を受け続ける子ども
子どものサインが激しくなるほど、おとなはその問題行動に目を奪われ「子どもの側の問題」としてしまふ

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

34

被害についての話を聴くときの留意点

- 気兼ねなく話せるような安心できる場所で聴く
- なるべく目の高さが同じくらいになるようにする
- 終始冷静に話を聴く
- 気持ちに**共感**する

「よく話してくれたね」
「話してくれてありがとう」
「あなたの話を信じるよ」
「あなたが悪いのではない」

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

35

してはいけないこと

- 暗に責めるような質問はしません。**
・「どうして?」「なぜ?」で始まる質問はなるべく避けます。
・「はい」「いいえ」で答えられる質問はなるべく避けます。
- できない約束をしてはいけません。**
約束は必ず守ることが信頼につながります。
「誰にも言わないで」と言われたとき、できない場合があることを説明する必要があります。
あなたの安全を守るためには、誰かの力(行政など)を借りなければならぬことを伝え、一緒に考えるようにしましょう。

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN

36

CAPセンター
CAPセンター

自立とは依存先を増やすこと

熊谷普一郎

脳性まひ、車いすユーザー、小児科医

依存先が限られていて、そこに支配があると暴力になる
依存先の選択肢が多いことこそが、自立
日常で自分の困り感に気づき、SOSを出せる練習をすることが自立支援

中学校2年生 国語教科書(三省堂)より

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 37

CAPセンター
CAPセンター

(6) 私たちにできることを考える

～ 障がいのある子どもやおとなを
性暴力の被害者にも加害者にもしないために ～

©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 38

CAPセンター
CAPセンター

障がいのある子どもやおとなは
無力ではない
たくさんの力を持っている
権利の主体者



©認定NPO法人CAPセンター・JAPAN 39